

天体望遠鏡の使い方（太陽の表面の観察）

太陽投影板の使い方

- ①天体望遠鏡に太陽投影板を取りつける。円をかいた記録用紙をセットする。

※ファインダーは取り外しておく。

太陽投影板を取り付けたあとは、鏡筒のバランスを確認する。

- ②鏡筒を太陽に向ける。

鏡筒を太陽の方向に向け、地面に写った投影板の影が一番小さくなるようにする。

- ③ピントを合わせる。

太陽の像が、記録用紙の円と同じ大きさになるように投影板の位置を調節する。

- ④表面の様子を記録する。

黒点が見えたらすばやくその位置や形を記録用紙にスケッチする。



注意事項

- 太陽を導入する際、絶対にファインダーを使用しない。ファインダーや接眼レンズを通して太陽を見ると失明の危険があります。
- 太陽観測中、接眼レンズと投影板の間に顔、手など体の一部を入れない。失明、やけどをする危険があります。（記録用紙の箇所は熱くなりません）
- 太陽観測を中止する場合は、一時的なことであっても必ず望遠鏡にキャップを取りつける。また太陽観測中は絶対に炎天下に望遠鏡を放置しない。火災が発生する危険があります。



理科教育を支援する

公益社団法人 日本理科教育振興協会

TEL. 03-3294-0715 ホームページ <http://www.japse.or.jp>